

令和8年度
医療創生大学大学院
教員紹介

生命理工学研究科
生命理工学専攻
修士課程・博士課程



医療創生大学
大学院

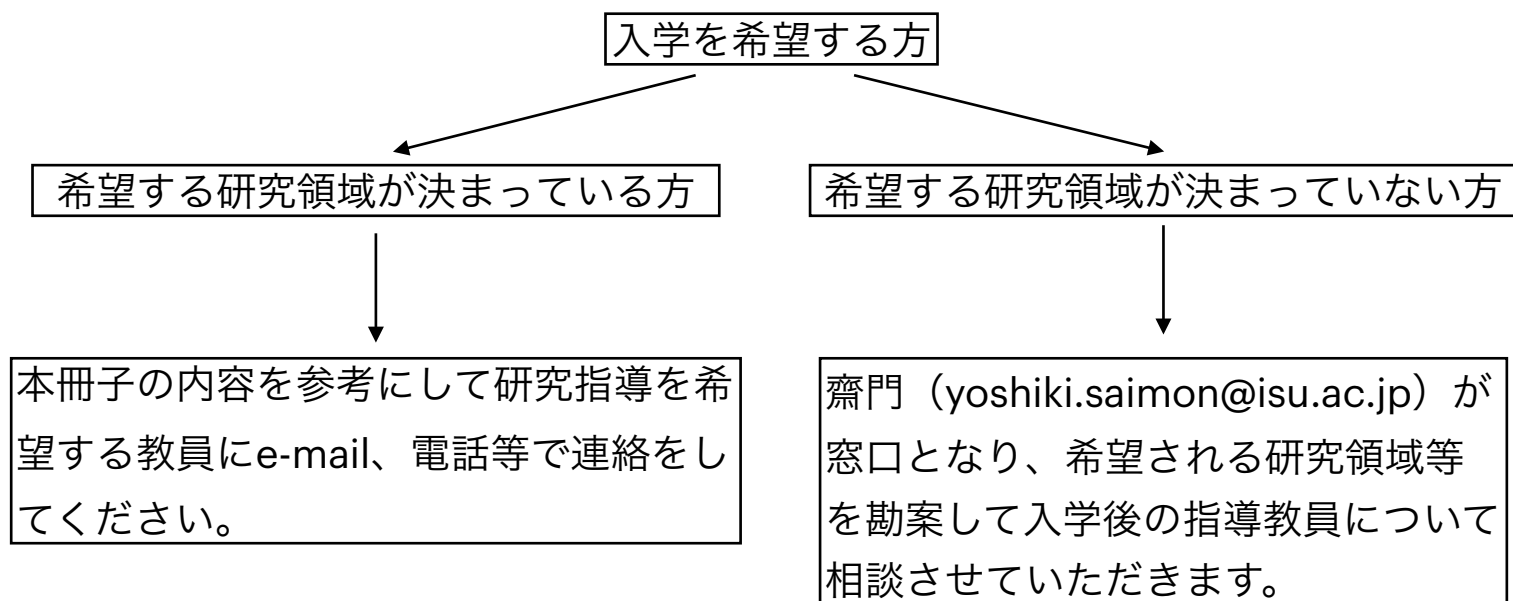
本研究科の修士課程では、理学療法士・作業療法士・看護師の方を中心に大学院生として受け入れております。臨床に従事しながら社会人大学院生として学位取得を目指すことができるよう教育を実施しております。遠隔地に居住している方も遠隔授業や遠隔での研究指導によって本研究科で学ぶことが可能です。本コースでは、研究方法論に関して学ぶと共にEvidence-Based Medicineの実践方法について体験的に学習します。その過程の中で、臨床的疑問を基に学生自ら研究課題を選定して研究に取り組みます。

博士後期課程においては、理学療法士・作業療法士の方を中心に大学院生を受け入れております。修士の学位を取得した後、他の医療専門職の学生と共に、さらに研究に関する高度な技術を獲得して社会貢献することを目指すことができます。

現在、福島県内外の学生が日々の臨床の中で感じる疑問を解決し、医療の発展に貢献すべく学んでいます。

この冊子では、作業療法士、理学療法士、看護師の方が大学院で学ぶことを希望された場合に研究指導にあたる教員を紹介します。

※ 本研究科に入学を希望される方は、あらかじめ志望する研究領域の担当教員と入学後の研究内容等について相談のうえ、出願する必要があります。



修士課程 生命理工学専攻 教員紹介

博士後期課程 生命理工学専攻 教員紹介



理学療法

物理的なエネルギーを用いた治療方法
について研究を行う



医療創生大学 学長代行

総合医療学部 学部長
理学療法学科 教授

ゴウ アーチェン

GOH Ah-Cheng 博士（理学療法）

国際物理療法学会 初代会長（2009～2011） 会長（2019～現在）

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1
TEL. 0246-41-7008（研究室）
e-mail. cheng@isu.ac.jp

学位

博士（理学療法学）

専門領域

物理療法 運動器傷害理学療法 臨床推論

研究活動

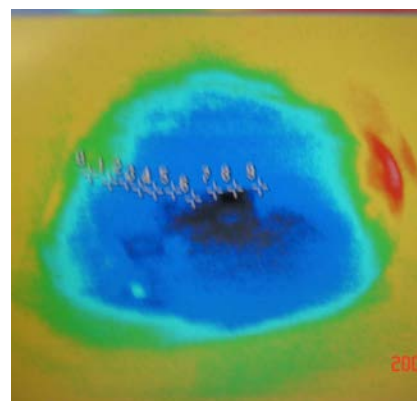
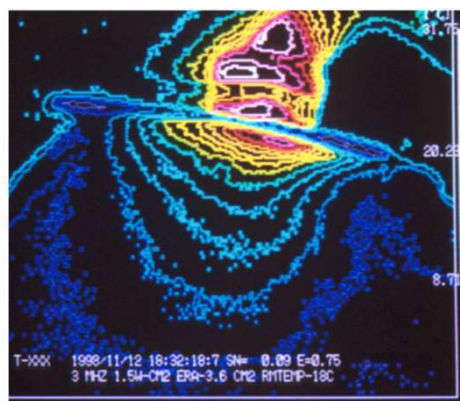
物理療法は、理学療法士にとって重要な領域の一つです。しかし、物理療法を効果的に用いるためには、エネルギーのコントロール方法を理解し、標的組織に対して適切にエネルギーを届ける必要があります。これを“dosimetry”といいます。20年間、物理療法である温熱療法、電気療法、機械的エネルギーを用いた牽引療法の“dosimetry”についての研究を行なっています。

Dosimetryの研究結果は、臨床で物理療法を実施するためのガイドラインとして使用できる治療モデルを発展させるために非常に重要なものです。この臨床ガイドラインがなければ、どのような治療をしても良い治療効果を引き出すことは困難です。

赤外線サーモグラフィーカメラを用いた温熱療法に関する研究

超音波照射による組織の温度変化

超短波による組織の温度変化



メッセージ

良い臨床家になるためには、
Scienceを理解することが必要です。

理学療法

運動器理学療法領域において、
臨床現場の役に立つ研究を行う



医療創生大学

健康医療科学部
総合医療学部 理学療法学科
研究・大学院部長
大学院 生命理工学研究科

学部長

研究科長

教授 齋門 良紀

博士（保健学）
理学療法士，JSPO-AT

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL. 0246-41-7003（研究室）

e-mail. yoshiki.saimon@isu.ac.jp

学位

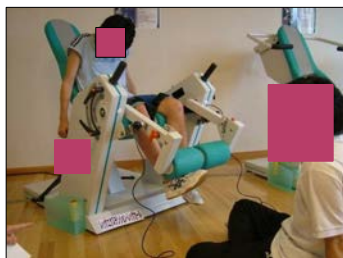
博士（保健学）

専門領域

運動器理学療法学 スポーツ理学療法学

研究活動

スポーツ傷害の発生要因や予防方法に関する研究



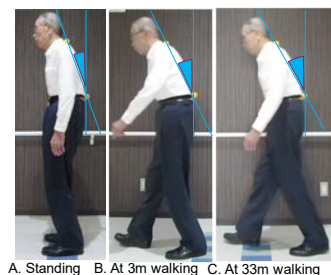
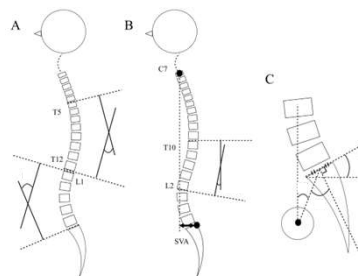
スポーツ選手に対する医科学サポートとして、傷害発生の予防や早期発見・治療を目的にメディカルチェックが行われます。その中で、傷害の発生要因や予防方法を検討する研究をしています。

超音波画像検査装置を用いた研究



超音波画像検査は、機器の発達により、有用性が見直されています。骨・関節・筋等を描出し、従来の評価・治療方法の再検討などを目的に研究しています。

成人脊柱変形に関する研究



加齢に伴う脊柱の変形による脊柱後弯（矢状面アライメント不良）がQOL低下の要因となります。脊柱後弯の予防・保存的治療方法の確立を目指し、その発生要因に関する研究をしています。

日々感じる臨床的疑問を
研究によって解決しましょう

理学療法

内部障害理学療法領域において、
臨床現場の役に立つ研究活動を行う



医療創生大学

健康医療科学部 学部リーダー（教務）

総合医療学部 理学療法学科

大学院 生命理工学研究科 生命理工学専攻長（博士後期）

准教授 小林 大介 博士（障害科学）
理学療法士

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL. 0246-88-6017（研究室）

e-mail. daisuke.kobayashi@isu.ac.jp

学位

博士（障害科学）

専門領域

内部障害理学療法学、理学療法教育管理学

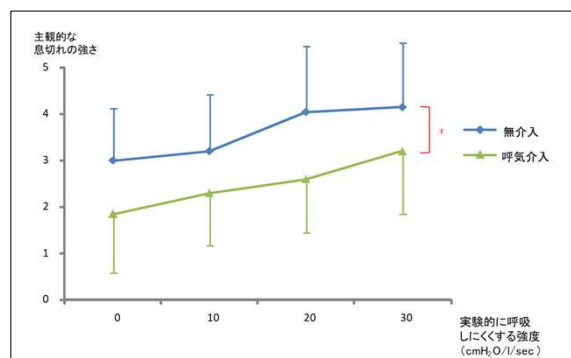
研究活動

慢性呼吸器疾患における理学療法評価法および効果に関する研究
理学療法を学ぶ卒前・卒後学生における学習スタイル・効果に関する研究

内部障害理学療法学：内部障害とは、心臓、呼吸、腎臓など身体内部の臓器の障害、つまり呼吸循環代謝系の障害を指します。内部障害理学療法は、生活習慣病の予防を含めて、心不全や慢性呼吸器疾患、糖尿病などの患者さんが対象となります。特に呼吸器疾患に対する理学療法の効果的な介入方法や検査・測定等について、基礎的な視点から研究を行っています。



理学療法教育管理学：理学療法教育に関連して、学部生の卒前における学習スタイルの特徴や批判的思考や自己効力感等との関係性、および臨床推論の考え方構築にむけた教育方法について研究を行っています。



メッセージ

皆さんの研究活動を支援し、
一緒に学び続けたいと思います。
よろしくお願いいたします。

看護

「現象学」によって、看護師がどのような経験や実践をしているのかを明らかにする！



医療創生大学

総合医療学部

副学部長

看護学部看護学科

学部長

大学院生命理工学研究科（修士課程）専攻長

教授

博士（看護学）

長谷川 幹子

看護師

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1 TEL. 0246-29-5111（代表）

TEL. 0246-29-7103（研究室直通）TEL. 0246-29-7103（看護学部長室直通）

e-mail. hasegawa.mikiko@isu.ac.jp

学位

博士（看護学）

専門領域

基礎看護学、基礎看護技術、看護基礎教育、ケアの現象学

研究活動

主に現象学的質的研究に取り組んでいます。看護を実践する当事者（看護師）の体験の記述によって、未だ記述されていない看護実践や看護現象が明らかになる可能性があり、科学的根拠だけではない看護師の体験を根拠にした看護の創出を目指しています。

現在は、病いにより苦悩する患者へ関わる看護師の体験を記述し、看護師のどのような行為や振舞いが苦悩する患者の助けになり得るのかを探究しています。

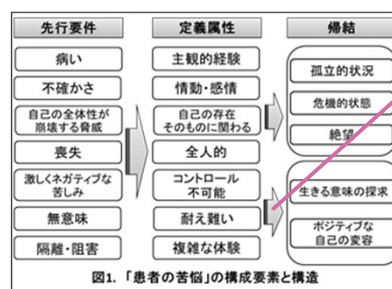
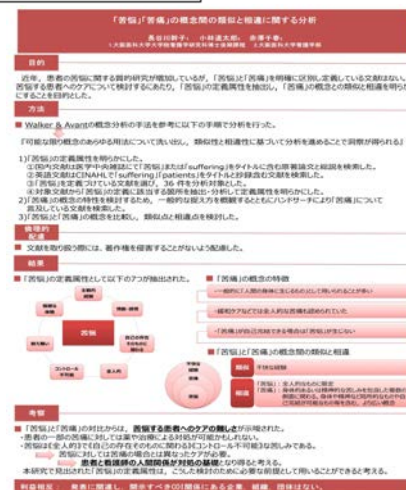


図1.「患者の苦悩」の構成要素と構造

ここでの看護師の関わりについて探究しています。



最近の研究

- ナースコールが頻回なALS患者に関わる看護師の経験：解釈学的現象学的記述
- 病いにより苦悩する神経難病患者と関わる看護師のありようの探求 - 注入食中止の意思を表明した患者と関わった看護師の体験に着目して -
- 看護師たちが捉えた注入食中止の意思を表明したALS患者の苦悩
- DNRの意思表示をしていたALS患者の急変時に対応した看護師の経験

臨床における「よくわかっていない現象や経験」、また、「当たり前とされている経験」について、一緒に探究しましょう！

理学療法

運動器理学療法領域において、
臨床現場の役に立つ研究活動を行う



教授／博士（保健学）

教務部長／学生・国際部長（国際担当）／図書館長

阿 部 裕 一

医療創生大学

総合医療学部／生命理工学研究科

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

:abe.yuichi@isu.ac.jp

:0246-29-5111（代表）



専門領域

徒手療法、運動器理学療法、スポーツ傷害予防、物理療法

クリニシャン・ サイエンティスト養成



理学療法の国際的ネットワークの構築

World Physiotherapy Congressでネットワーク構築



海外理学療法大学とのネットワーク構築



一緒に学びながら知識を深めていきましょう

理学療法学分野

「科学的理性」と「慈愛の感性」を併せ持つ、次代の医療人へ
-既存の常識を疑い、自らの手で臨床をアップデートしませんか？-



医療創生大学

大学院生命理工学研究科 修士課程
博士後期課程理

教授 古川

勉寛

理学療法士
博士（工学）



〒970-8551
福島県いわき市中央台飯野5-5-1
katsuhiro.furukawa@isu.ac.jp

経歴

2015年 信州大学大学院 総合工学系研究科修了 博士(工学)
2017年 いわき明星大学 薬学部 兼 大学院 講師
2019年 本学 健康医療科学部 理学療法学科 兼 大学院 准教授(現、教授)
2020年 UNISA(インドネシア)客員教授 ~ 現在(併任)

専門領域

現代の医療はデータ駆動の歴史的転換点にあります。新ロゴ(LCIS)は厳格な『臨床計量学』と現場へ波及する『実装科学』の融合の象徴です。臨床の葛藤をエビデンスへ昇華し最速で社会実装する次世代エコシステムに挑む、経験則を超えたい実践家や次代の研究者となる皆様の挑戦を待っています。

研究活動

多忙な臨床業務と両立できるよう、研究指導はオンラインを基本に柔軟に対応し、各種支援制度(長期履修や給付金等)も個別にご案内します。大切なのは私の専門性よりも「皆さんが現場で挑戦したいテーマ」で専門性を確立すること。現場の葛藤を深く聞き対話を重ねて研究を共に進めます。以下は当室で身につく最先端スキルです。

🌐 物理療法の国際標準化と臨床計量学(COSMIN等に基づく測定法開発)

経験や主観に頼りがちな評価を客観的データへ。超音波画像診断や電気生理学的検査を用い、現場で直接活用できる国際基準(COSMIN等)に基づいた高度な検査・測定法を開発します。

🧠 感性工学の臨床応用(誘発脳波・筋電図による主観の客観化)

医療機器や治療に対する患者様の「心地よさ」等の主観的・心理的反応(感性)を、誘発脳波や筋電図を用いて定量化・可視化。従来の検査では捉えきれない効果を科学的に解明します。



📊 データ駆動型理学療法(OHDSI / TIDieR / MAGICを用いたEBM社会実装)

創出したエビデンスを机上の空論で終わらせません。OHDSI(医療ビッグデータからの因果推論)、TIDieR(AI向け介入構造化)、MAGIC等の手法を駆使し、次世代EBMエコシステムを構築します。

スマホで読み取ると、1分で面談
申込メールが作れます



researchmap



＼ 他大学出身・初めましての方も大歓迎！ ／

2026年度より学内の役職を退任し、大学院生お一人おひとりとより密接に対話・指導できる体制が整います

理学療法

知らないという事を知り
患者さんや理学療法学の発展に寄与できる
研究に取り組んでみませんか？



医療創生大学

総合医療学部・健康医療科学部

理学療法学科 学科長

大学院 生命理工学研究科（修士課程）

教授

糸山 日出樹

博士（医学）
理学療法士

〒970-8044 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL. 0246-38-8945（研究室直通）

e-mail. momiyama.hideki@isu.ac.jp

学位

博士（医学）、修士（教育学）

専門領域

理学療法教育、運動療法学、徒手理学療法

研究活動

主な研究内容は、理学療法教育、運動療法学、徒手理学療法学です。理学療法教育分野では、教育の質向上とProfessionalism育成に向けた研究を行っています。また、運動・徒手療法の観点から、ストレッチング、筋力増強、関節モビライゼーションなど、身体機能の改善に関する臨床応用にも取り組んでいます。

運動療法学 領域研究

- ・力の入れやすい重心の位置の研究
- ・効果的な筋力増強を目的とした運動療法（水中歩行）
- ・徒手療法（*Neuro tension test*, *Neuro stretching*）
- ・VBI(椎骨脳底動脈循環不全症)の徒手検査の信頼性
- ・棘上筋の外転角度と筋厚との関係-安静期間内の可動域-

2003年 文部科学省 長期在外研究員で
Sydney大学赴任時に現地のSportphysioに
勧められたテキストを監訳



理学療法 教育学 領域研究

- ・基礎医学（人体機能学）で基礎理学療法を学ばうラー教育
- ・入学前準備教育としてのリメディアル教育の効果検証
- ・経験や体験から自己成長の機会と醸成を目的とした構成的グループエンカウンター（SGE）
- ・臨床実習に向けたClinical Reasoning指向性課題学習
- ・OSCE（客観的臨床能力試験）を活用した臨床スキルアップ学習

日頃の臨床での疑問・問題意識を大学院で解決する！

理学療法

適切な理学療法評価・臨床判断を行い、効果的な理学療法の実践に繋げる研究活動を行う



医療創生大学

健康医療科学部

総合医療学部 理学療法学科 講師

大学院 生命理工学研究科（修士課程）

理学療法士

脳卒中認定理学療法士

神経理学療法専門理学療法士

佐藤 惇史

博士（理工学）

SATO Atsushi

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL. 0246-68-6242（研究室）

e-mail. atsushi.sato@isu.ac.jp

学位

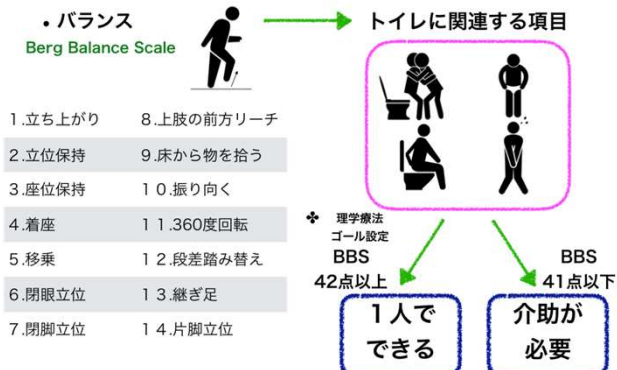
博士（理工学）

専門領域

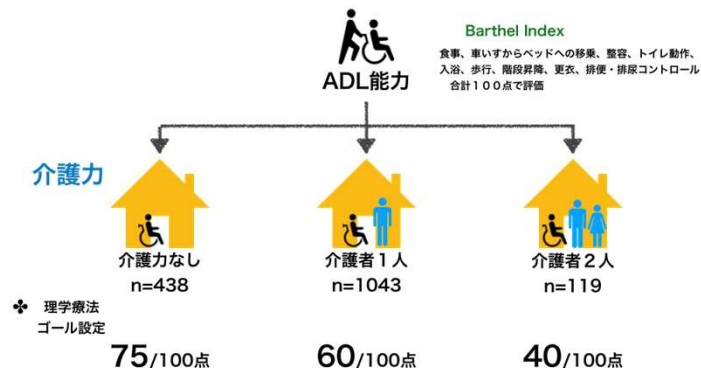
神経理学療法学 理学療法評価学

研究活動

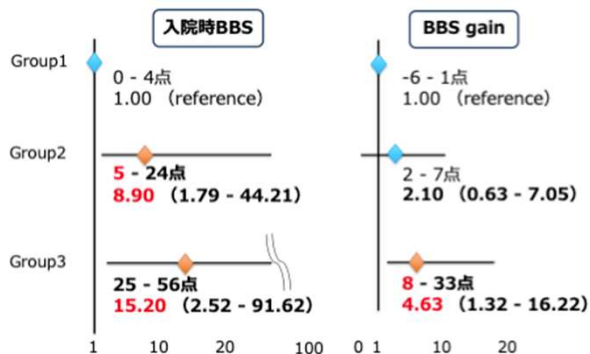
脳卒中患者のADL自立の判断基準の検討



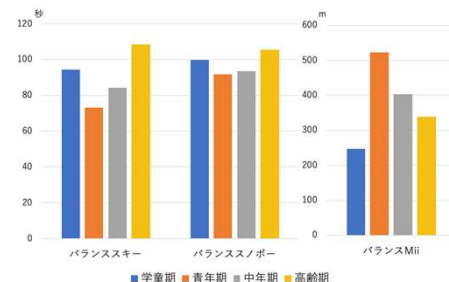
自宅退院を判断するためのADL基準の検討



脳卒中患者のADL予測の検討



エクササイズゲームを用いたバランス評価の検討



日々の理学療法に役立つ活動を行なって
いきたいと考えています

理学療法

筋や関節にかかる“見えない力”を可視化する



医療創生大学

健康医療科学部
総合医療学部 理学療法学科 学年主任
大学院 生命理工学研究科 修士課程

助教 中 辻 晋太郎 博士（保健学）
NAKATSUJI Shintaro

理学療法士
運動器認定理学療法士
スポーツ理学療法認定理学療法士

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1
TEL. 0246-84-5264（研究室）
e-mail. nakatsuji.shintaro@isu.ac.jp

学位

博士（保健学）

専門領域

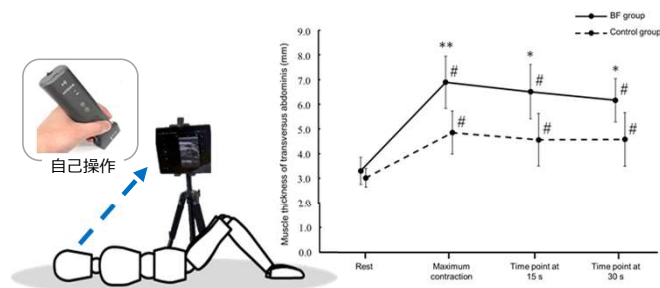
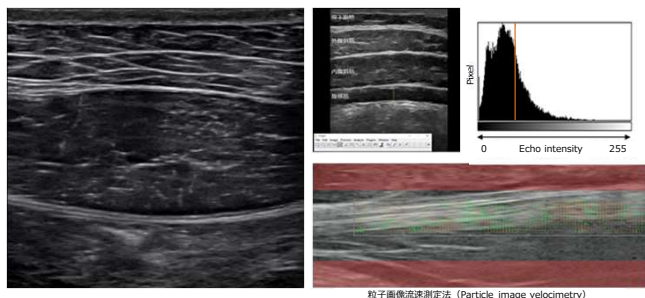
運動器理学療法学，スポーツ理学療法学

研究活動

バイオメカニクスの手法を用いて
安全で効果的な理学療法とより良い教育を提供するための研究を行う

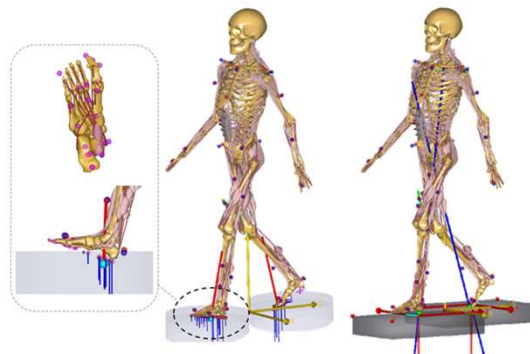
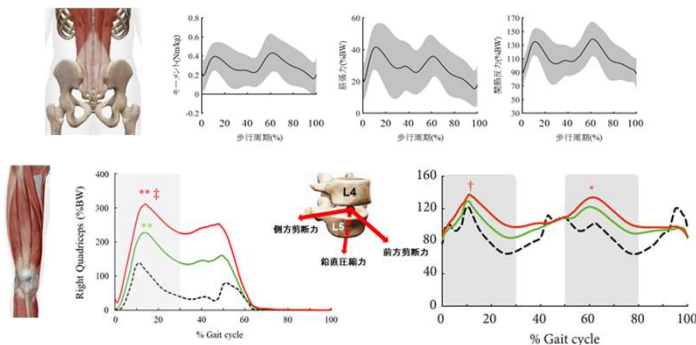
1. 運動器疾患の病態や運動療法の効果に関する研究

- 筋厚，筋輝度，軟部組織の動態を定量化し，
運動器疾患の病態や運動の効果を検証しています
- 自己操作型超音波プローブによる視覚バイオフィードバックを運動療法へ応用する研究をしています



2. 動作分析に関する研究

- 運動中の関節角度や関節モーメント，筋張力，関節反力などを推定し，筋や関節にかかる力学的負荷について研究しています
- マーカースレスモーションキャプチャや床反力推定といったテクノロジーを動作分析の教育に活用する方法を検証しています



身体の動きの理解を通して
臨床や教育に役立つ研究を行います

理学療法

地域社会と連携し、すべての人々の利益につながる研究を行う。



医療創生大学

健康医療科学部
総合医療学部 理学療法学科
薬学部 薬学科

ハーバート トム
助教 HERBERT Tom

博士（保健学）
理学療法士

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1
TEL. 0246-88-6045（研究室）
e-mail. thomas.m.herbert@isu.ac.jp

学位

博士（理学療法学）

専門領域

筋骨格系障害、慢性疼痛、介入方法の開発、行動変容理論

研究活動

CHIPPS - (Chronic Pain Peer Support) 慢性疼痛ピアサポート

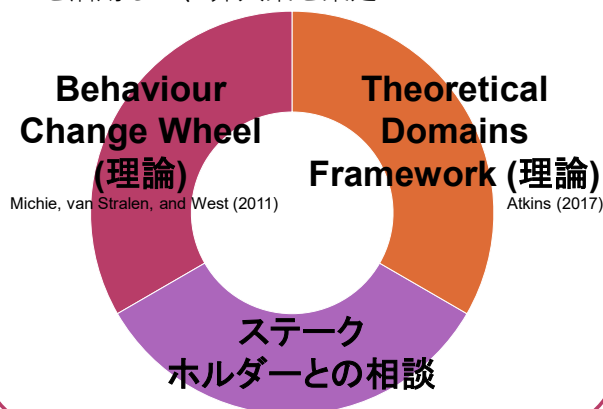
Part 1: ステークホルダーワークショップ

慢性疼痛を抱える人々が、自身の抱える問題を理解できるようにステークホルダーとワークショップを実施



Part 2: 行動変容理論

行動変容理論とステークホルダーとの相談を活用して、介入策を策定



Part 3: 介入方法の開発

慢性疼痛 ピアサポート
(CHronic Pain Peer Support - CHIPPS)
マニュアルを作成

このマニュアルを使用すれば、誰もがピアサポートを理解し、自分たちでグループを立ち上げることができ、セルフマネジメントの技法を共有することが可能



Topic 2: Movement and Exercise

Moving, physical activity, and exercise, are all often challenged by having a chronic pain condition. However, these things also represent aspects that can help in managing pain. Therefore, it is important to discuss how to help people move more to access more of their life and improve their chronic pain management.

Developing strategies for physical activity
This topic will discuss ways to support your participants in engaging with physical activity.

- You can start by discussing the benefits of physical activity. These can include:
 - The social benefits, such as improving relationships and making new friends.
 - The benefits to physical health and chronic pain that come from doing physical activity.
 - The positive impact on mental health that comes from doing physical activity.

You, or other participants can share effective strategies for engaging with physical activity.

- There are also resources to support people living with chronic pain engage with physical activity.
- [Insert links to resources]
- You may also find some helpful strategies in Topic 8, Skills for chronic pain.



It is also important to discuss how to engage in the strategies for physical activity even when you are having a good pain day so that you can form the habit to support yourself on bad pain days.

Topic 7: Chronic Pain-Related Decision-Making

People living with chronic pain have to make decisions every day that affect their pain or their lives. Helping people make more informed decisions and sharing experiences and knowledge of making better decisions can make a big difference. This section with discuss how you can have these conversations in your programme.

Understanding the influences on positive decision-making
Discuss how improving decision-making skills can help with the management of chronic pain.

Discuss how decision-making can affect those around us as well as ourselves.

Discuss how we make changes to our decision-making throughout our lives depending on our circumstances and that changing one's decision-making when it comes to chronic pain can be viewed similarly.

Suggest that other people living with chronic pain have found benefits in changing their decision-making to better manage their chronic pain condition.

You or other participants can share any resources, services, or signposting to support decision-making skills.

[Insert links to resources to help with chronic pain decision-making]

- You or other participants can demonstrate any of the skills or decision-making techniques discussed in the session, providing examples or their own experiences.



皆さんの研究とその患者さんを支えるために、
ともに取り組んでいきましょう。

看護

患者の変化を見抜き、
生活を守る神経医療を探究する



医療創生大学

Iryo Sousei University

総合医療学部看護学科・
看護学部看護学科
大学院 生命理工学研究科（修士課程）

教授

柴野 健

医学博士、医師

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL : 0246-29-7151(研究室)

e-mail : shibano.ken@isu.ac.jp

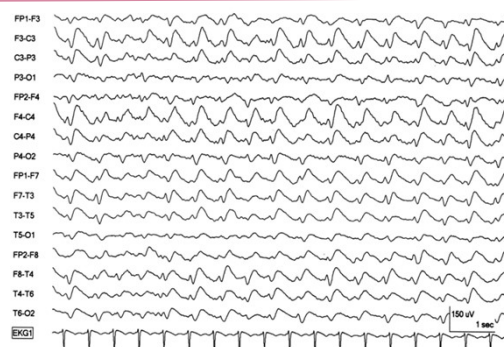
学位

博士（医学）

専門領域

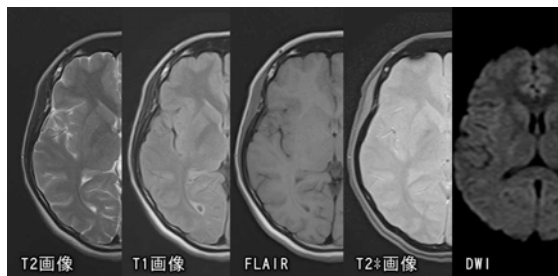
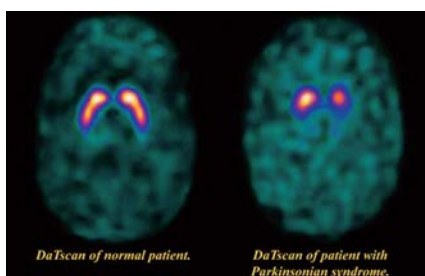
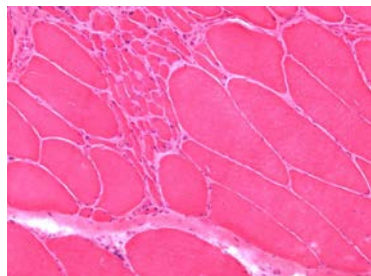
臨床神経内科学

研究活動



脳神経内科は、人の「生きる力」の根幹である脳・脊髄・神経・筋を扱う分野です。言葉を話す、手を動かす、感情を抱く——当たり前のように思えるひとつひとつの営みが、どのように生まれ、どのように失われ、そしてどう支えられるのか。その仕組みを深く理解し、患者さんの人生に寄り添いながら回復を支えることができるのが脳神経内科の魅力です。

脳卒中、パーキンソン病、てんかん、認知症、神経難病など、扱う疾患は多岐にわたり、症状も実に多彩です。同じ疾患でも患者さんによって現れ方が異なるため、観察力や推理力が求められます。



日常生活動作の変化を早期に捉えるアセスメント方法や、患者さんの主体性を引き出すケア介入の効果を明らかにする研究に取り組んでいます。特に、神経変性疾患や脳血管障害の患者さんが、生活の中でどのように機能回復を実感し、自己効力感を高めていくのかを可視化することを目指しています。

皆さんの専門性が患者さんの看護や機能回復
と生活の質向上に不可欠な力となります。

看護

疫学は、地域に根ざした学問です。福島県のため、いわき市のために何ができるのかを一緒に考え、行動していきましょう



医療創生大学

総合医療学部看護学科
看護学部看護学科 教授

大学院 生命理工学研究科（修士課程）

博士（看護学）

後藤 恭一

GOTO Kyoichi

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL. 0246-29-5111（代表）

e-mail. kyoichi.goto@isu.ac.jp

学位

杏林大学大学院国際協力研究科 修士（国際医療協力）
東京女子医科大学看護学研究科 博士（看護学）

専門領域

環境疫学、生活環境、地域環境、
家族保健、ウーマンズヘルス、女性の健康、子育て支援、看護研究

研究活動

主な研究は「騒音による疫学研究（コホート研究）研究歴30年」ですが、7年前から「浜通りにおける震災後の子育て支援」に着手しています。両研究での共通事項は、フィールド調査・観察研究であることです。観察研究であるがゆえに、曝露因子を制御することが出来ないことや、複雑な交絡要因を調整しつつ、因果関係を推定する難しさを感じますが、反面、そのプロセスや、結果を見出した時の楽しさも感じています。一緒に研究を楽しみましょう。



OODA（ウーダ）ループとは、Observe（観察）、Orient（状況判断）、Decide（意思決定）、Act（行動）の4つのステップを繰り返すことで、変化の激しい状況に対応するための意思決定フレームワークです。

疫学の父として知られるJohn Snowは、このOODAを用い、大疫病コレラからロンドン市民を守りました。

コッホがコレラの病原菌を特定する30年前の出来事です。フィールド（現場）調査の醍醐味を感じる疫学が、産声をあげたのです。

何かを発見することは苦しい。でも、それを乗り越え発見したの喜びは、苦しみを大きく勝ります

看護

地域包括ケアシステム構築の中で求められる
新たな看護ケア技術の開発を目指します



医療創生大学

国際看護学部看護学科 教授
大学院 生命理工学研究科（修士課程）

看護師・保健師
博士（医学）

葛西 好美

KASAI Yoshimi

〒277-0803 千葉県柏市小青田1-3-4
TEL. 04-7128-3971(研究室)
E-mail. kasai.yoshimi@isu.ac.jp

学位

博士（医学）

専門領域

地域・在宅看護学（訪問看護）、看護工学

研究活動

訪問看護師の臨床推論・判断の明確化および判断支援に関する研究

在宅医療が推進され、看護師には訪問看護や退院支援、遠隔看護など幅広い知識や技術が求められています。看護ケアの質向上のために、以下の研究を実施しています。

- ◆ 訪問看護師の臨床推論や判断、看護ケアの判断上の困難について、質的分析および量的分析を用いた明確化・可視化
- ◆ 情報技術を活用した訪問看護師の判断支援を行うためのシステム開発



図4 訪問看護判断データベースアプリ(見本)

地域包括ケアシステム構築の中で情報技術を活用するための教育的支援に関する研究

地域包括ケアシステム構築において、情報通信技術を活用しサービスの効率化や質の向上を目指すために、以下の研究をしています。

- ◆ 地域包括支援センターにおける情報技術活用に関するニーズ調査
- ◆ 訪問看護師の情報技術活用の実態とニーズの明確化
- ◆ 情報通信技術の活用を促進するための訪問看護師向け教育プログラムの開発

研究を通して得られる専門知識や思考力は、あなたの
キャリアを豊かにし、将来の選択肢を大きく広げてくれます。

作業療法

地域高齢者における介護予防、認知症予防
などの研究を支援いたします



医療創生大学

総合医療学部・健康医療科学部

作業療法学科 学科長

大学院 生命理工学研究科（修士課程）

教授 藤本 聡

博士（医学）、作業療法士

〒970-8551 福島県いわき市中央飯野5-5-1

TEL. 0246-68-6196（研究室）

e-mail. fujimoto.satoshi@isu.ac.jp

学位

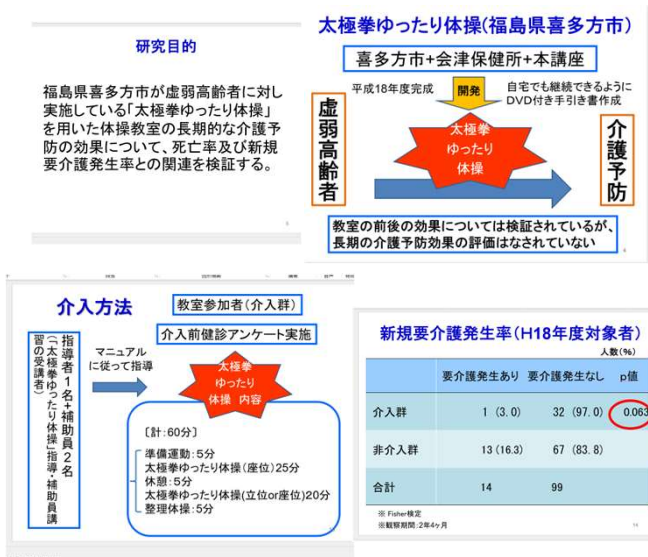
博士（医学）

専門領域

地域作業療法、高齢期作業療法、介護予防、認知症予防

研究活動

介護予防に関する研究



○平成18年度対象者の新規要介護発生率では、統計的に有意な差はないものの「太極拳ゆったり体操」を用いた体操教室への参加が、新規要介護発生率を下げる傾向にあった。本体操が介護予防プログラムの一つとして有用である可能性が示唆された。

「太極拳ゆったり体操」の介護予防効果の検証、藤本聡、山崎幸子、松崎裕美、若林章都、安村誠司、第68回日本公衆衛生学会総会 平成21年10月22日

精神機能検査に関する研究



UBOMで使用する用具のイメージ



UBOM研究会では、技術講習会を開催しています。

○精神疾患に関するすべての人々に対して、精神機能の簡便な検査法である臺式簡易客観的精神指標テスト（UBOM）の研究を行っています。UBOM研究会に所属して活動しています。

認知症予防に関する研究



○認知症サポーター養成講座や認知症カフェを行っていました。本学でも実施する予定です。認知症に関する研究も行っていきます。

人のためになる研究を一緒に行いませんか？

作業療法

精神障害者への地域医療・保健・福祉
に関する研究を支援します



医療創生大学

総合医療学部・健康医療科学部
作業療法学科 教授

大学院 生命理工学研究科（修士課程）

認定作業療法士
博士（保健医療学）

水野 高昌

MIZUNO Takamasa

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

直通 TEL. 0246-88-6736 (研究室) 代表 TEL 0246-29-5111 (内線:432)

e-mail, mizuno.takamasa@isu.ac.jp

学位

博士（保健医療学）

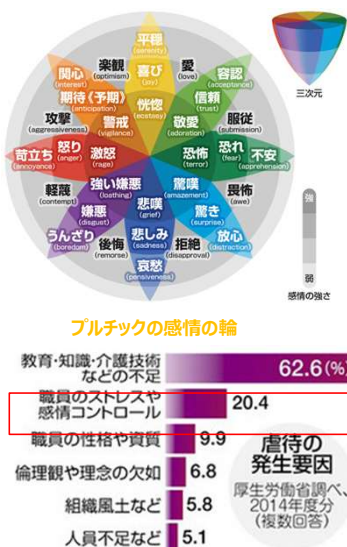
專門領域

精神障害リハビリテーション、地域作業療法、感情労働
障害者グループホーム、支援者支援、感情知性

研究活動

グループホームにおける職員の感情知性と職場適応との関係を明確にし、資質向上につなげる研修プログラムの開発を主な研究テーマとしています。

「精神障害者向けグループホーム職員のEQ感情知性に関する研究



基本プログラム案

1. 感情に関するスキルを高めよう (10分)
2. 自分の感情に気づく (5分)
3. 他者の感情に気づく (30分)
4. 自分の感情を理解する (30分)
休憩 (5分)
5. 他者の感情を理解する (10分)
6. 感情のコントロール (10分)
7. 感情知性とストレス対処 (10分)
8. 感情の活用 (10分)



科学研究費 基盤研究(C)

作業療法の臨床は「全人的な対人サービス」で構成されています。様々な「価値観」に触れることができますが、ゆえに要素還元的に探索された方略が眼前のケースに適応できないことも少なくないでしょう。帰納的な思考を駆使してひとつひとつ事例に丁寧にあたり、演繹的に活用できる概念を抽出するといった研究活動に関心ある方、一緒に取り組んで参りましょう。

作業療法



医療創生大学

総合医療学部 作業療法学科 教授
大学院 生命理工学研究科(修士課程)

作業療法士/学術博士 田島 明子 TAJIMA AKIKO

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1
TEL. 0246-38-8945 (研究室)
e-mail. tajima.akiko@isu.ac.jp

学位

博士（学術）

専門領域

作業療法理論・歴史、高齢期・認知症にとっての作業権の保障、当事者視点からのリハの批判的検討等

研究活動

これまでの研究活動には5つの過程がありました。臨床における「障害受容」という言葉の用いられ方から垣間見えるリハビリテーションにおける療法士・対象者の関係性についての素朴な疑問から始まり、リハビリテーションの在り方を当事者視点から再構築を試み、現在は、高齢者の作業権に注目し、「ペットとの共生」という観点から高齢期のより良い暮らしの在り方を探求しています

【研究活動の5つのステップ】

障害受容の再考

- ・「障害を受け入れることが正しいの？」という素朴な疑問からスタート

『障害との自由』という新しい視点

- ・障害があっても、自由に生きられる可能性に目を向けます

当事者の語りから学ぶ

- ・実際に障害をもつ人の声から、気づきや学びを深めます

支援者教育への応用

- ・作業療法士などの支援者が「押しつけない支援」を学べる教育をつくります

誰もが自分らしく生きられる社会へ

- ・「違いを受け入れ合う」ことが当たり前になる社会をめざします



メッセージ: 自ら知を創造するクリエイティブな営みが研究です。新しい作業療法を創造していきましょう！

作業療法

脳損傷者・認知症者の視覚認知に関する研究 地域在住高齢者の健康・福祉に関する研究



医療創生大学

総合医療学部・健康医療科学部

作業療法学科

大学院 生命理工学研究科（修士課程）

准教授 井上 香 博士（作業療法学）、作業療法士

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL. 0246-88-7275（研究室）

e-mail. inoue.kaori@isu.ac.jp

学位

博士（作業療法学）

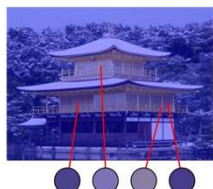
専門領域

高齢期作業療法、地域作業療法、認知症、視覚認知

研究活動

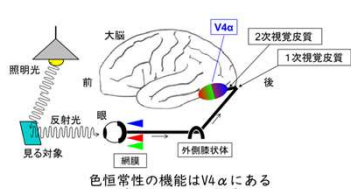
レビー小体型認知症の視覚認知障害に関する研究

色恒常性とは？



照射の強さや色が変わると物体から反射する光の振幅や波長は大きく変化するが、同じ色に見える。これを色恒常性と呼ぶ。

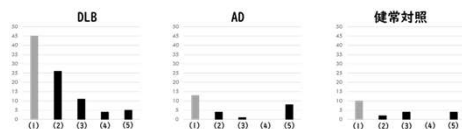
レビー小体型認知症の色認知障害の神経基盤



色の認知に深く関わる領域はV4αとよばれ、紡錘状回の後部に存在する。

- レビー小体型認知症（DLB）では色覚障害の報告がある（Flanigan et al., 2007, Oishi et al., 2020）。
- しかし、それ以外の色認知障害の報告はない。
- 紡錘状回は、DLBで変性の強い領域の一つ（Ye et al., 2020）。
- DLBでは色恒常性の障害が起こる可能性がある。

本研究では、DLB患者の色恒常性を評価し、その結果をアルツハイマー病（AD）患者および健常対照者の結果と比較した。



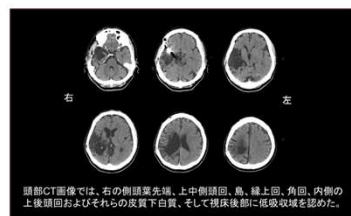
- (1) 全誤反応。
- (2) 照明の色や明るさの効果が直接説明できる誤り（例：赤照明下で黄色を橙）。
- (3) 無彩色に有彩色名を答える誤り（例：黄色照明下で黒を紺）。
- (4) 似た色相の色に照明の色や明るさの効果を加えることで説明できる誤り（例：赤照明下で桃色を橙）。
- (5) その他。

DLB患者には色恒常性の障害があり、正しい色を知覚するまでに時間がかかる場合があることが示唆された。

責任病巣がV4αにもあるという考えを支持する結果を得た。

視覚計数障害に関する研究

脳の局所的な障害により、似たようなものを数えるのが難しくなることがある。



症例

「直前にどこを見ていたが分からなくなる。そのため、文字、つるし棒などの似た形のものが多く並ぶと間違ふ」と訴えた。

視覚計数障害を呈した局所脳損傷者の症例に対して、眼球運動計測装置（アイマークレコーダー）を用いて、静的刺激や動的刺激に対する計数反応の違いを検討した。

静的条件

症例



健常対照者

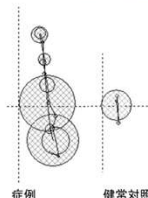


動的条件

症例

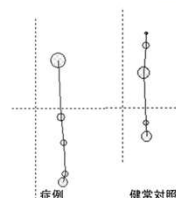


健常対照者



症例

健常対照者



症例

健常対照者

本例では、静止していると困難であった数かぞえが、対象を動かして衝動性眼球運動を行なうとよくすると健常者に近く改善した。

すなわち、追従性眼球運動のみを使用する課題では、問題が見られなかった。

ここから、症状の背景に衝動性眼球運動の前に見ていた場所の定位の障害が考えられた。

研究をすることでより深く学び一緒に成長して、粹にとらわれない作業療法の思考を身につけていきましょう。

作業療法

社会医学を基盤として
幅広い分野の研究を支援します





医療創生大学
総合医療学部・健康医療科学部
作業療法学科
大学院 生命理工学研究科（修士課程）
准教授 **春山 佳代** 博士（医科学）、作業療法士

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-1
TEL. 0246-68-6203（研究室）
e-mail. kayo.haruyama@isu.ac.jp

学位

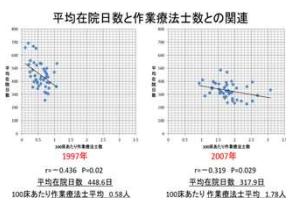
博士（医科学）

専門領域

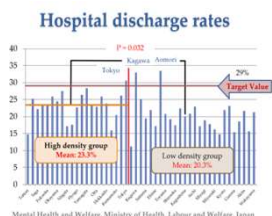
社会医学

研究活動

精神科作業療法に関する研究



47都道府県ごとに集計された統計調査をもとに、精神科病院の作業療法士の人数と平均在院日数との関連を調べました。作業療法士の人数が多い都道府県の方が、平均在院日数が短かったことを明らかにしました。

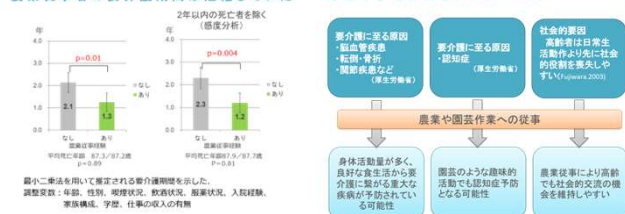


精神科病床数あたりの作業療法士の人数の多寡に分けて退院指標の比較を行いました。その結果、作業療法士の多い都道府県のグループは長期入院患者（1年以上）の退院率が良いことが分かりました。

高齢者の健康長寿に関する研究

農業従事者の要介護期間は短縮していた

考察（考えられるメカニズム）



健康長寿で良く知られる、山梨県のコホート調査「Y-HALE Study」（山梨大学）のデータから、農作業への従事の有無と要介護期間との関連を調べました。その結果、農業従事者では要介護期間が短縮していることが明らかになりました。

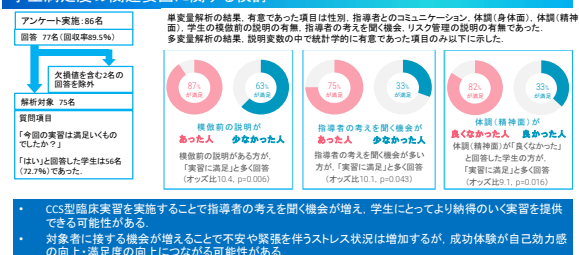
K.HARUYAMA, H.YOKOMICHI, Z.YAMAGATA, Medicine, 2020 Sep 18;99(38)

作業療法教育に関する研究

臨床・クラークシップ導入に向けた実習指導者へのアンケート調査



臨床・クラークシップ型臨床実習における学生満足度の関連要因に関する検討



作業療法や介護予防、教育に関する研究を応援します。
広い知の世界に飛び込みませんか？



医療創生大学

総合医療学部・健康医療科学部
作業療法学科

大学院 生命理工学研究科（修士課程）

助教 五十嵐 裕 博士（スポーツ医学）

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1
TEL. 0246-88-6278（研究室）
e-mail. igarashi.yutaka@isu.ac.jp

学位

博士（スポーツ医学）

専門領域

健康スポーツ科学

研究活動

健康に対する運動療法の効果について、文献調査によるエビデンスの確立をメインテーマとしています。

得られた文献の研究デザインの質を考慮しながら（システマティックレビュー）、評価項目のデータを統合する統計的手法（メタ解析）を用いて、これまで行われてきた研究がどのように役立つのかを評価していきます。

これまでは、運動療法に対する生活習慣病の指標の改善を主に扱ってきましたが、今後はあらゆるセラピーや評価項目に注目し探求を行っていきます。

最近の業績

- 継続的な運動実践による体脂肪の減少と糖代謝改善との関連性
- 高強度の運動実践による生活習慣病（肥満、高血圧症、脂質異常症、2型糖尿病）改善の効果

エビデンスを確立するための研究を目指しましょう

医療創生大学

大学院

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL : 0246-29-5327 FAX : 0246-29-5105